

婦人用衣服原型のアームホール曲線について

山田 民子*, 赤見 仁**

(平成9年10月2日受理)

Guidance in Drafting Arm Hole Line of Lady's Basic Patterns

Tamiko YAMADA and Hitoshi AKAMI

(Received on October 2, 1997)

1. 緒 言

パターンメイキングの基本であるウエスト原型を学生に指導する際に手直しの多い部位としてあげられるのがアームホール曲線である。

そこで我々は、学生にアームホール曲線を指導する際、簡単に描くための手順が提示できるか検討を行ってきた。

前報では、文化式と東京家政大学式の2方式に関して、被服構成学の指導者が描いた婦人用衣服原型のアームホール曲線はサイズに関わらず共通の形があり、経験的な関数ができていることが推測できた。

本研究では、指導者が描いた衣服原型のアームホール曲線の平均値から描いたその曲線を同一座標上の曲線として検討を行った。

興味ある結果が得られたので報告する。

目的は次の通りである。

- (1) 文化式、東京家政大学式の2方式の衣服原型のアームホール曲線には、方式や、サイズ別に、差異があるか。

2. 実験方法

(1) 試 料

1) 衣服原型

指導者が描いた衣服原型のアームホール曲線の平均値から作成した曲線

① 方式 文化式

東京家政大学式

② サイズ 5 A 2, 9 A 2, 13A 2, 17A 2, 21A 2

(2) 測定方法

- 1) パターンのアンダーアームポイントをb点とし、b点からバストラインに直角な線をY軸とした。
- 2) 前、後見頃それぞれのショルダーポイントをc点とし、c点からY軸に直角な線を引きそれぞれの交点をa点とした。
- 3) a点とb点の間を16等分し、バストラインに平行な直線を引きアームホール曲線との交点を作成した。
- 4) a b間の各分割点とアームホール曲線の交点との距離を測定した。
- 5) Y軸の16等分座標値(1単位距離 1cm)にし、X軸は4)の座標値を用いてアームホール曲線を表した。
- 6) 曲線の最下点をd点としd点より垂直に上げた直線をY軸とした。Y軸と曲線の繰りの一番深い点の距離を8等分し、Y軸に平行な直線の交点を作成した。
- 7) X軸からアームホール曲線の交点までの距離を測定した。
- 8) Y軸の16等分座標(1単位距離 1.0cm)、X軸の8等分座標(1単位距離 0.5 cm)を用いてアームホール曲線を表した。
- 9) この写像した曲線について、比較検討を行った。

3. 結果・考察

アームホール曲線の検討部分はデザインやサイズの影響が少ないと考えられるアンダーアームホール部分とした。

* 服飾美術科 被服構成学実験研究室

** 服飾美術学科 被服構成システム研究室

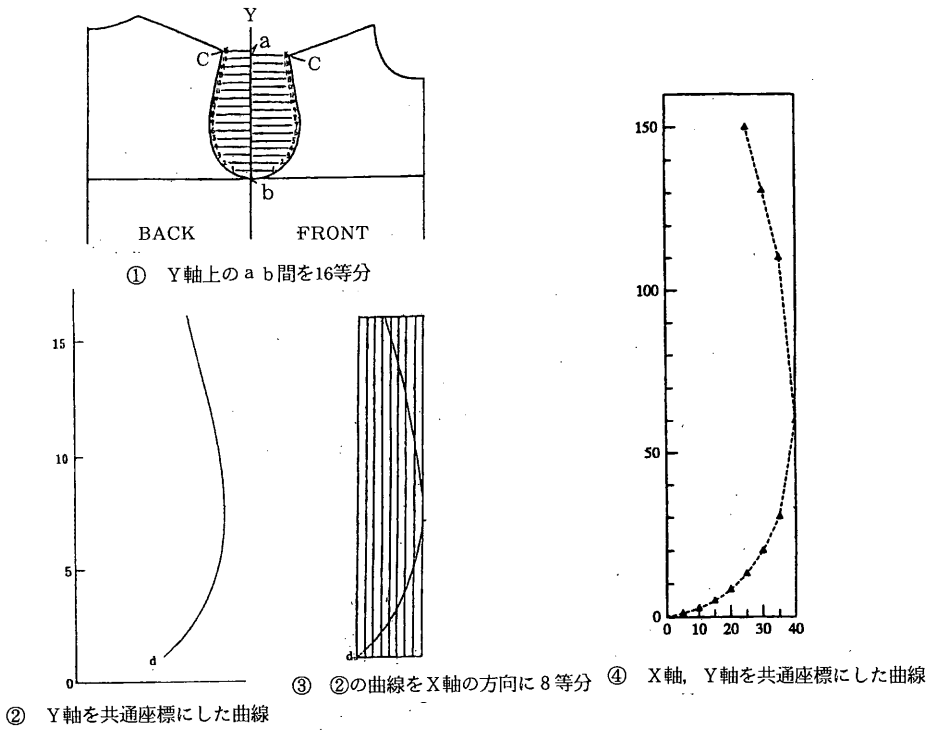


図1 測定方法

1) 衣服原型のアームホール曲線

図2は、文化式原型のアームホール曲線をサイズごとに同一座標上に重ねたものである。指示点より下のアンダーアームホールにおいて、Frontはほとんど一致

した曲線となったがBackは少しバラツキがみられた。

図3はアパレルCADの自動機能で作成した文化式原型のアームホール曲線である。Front, Backともほとんど一致している。

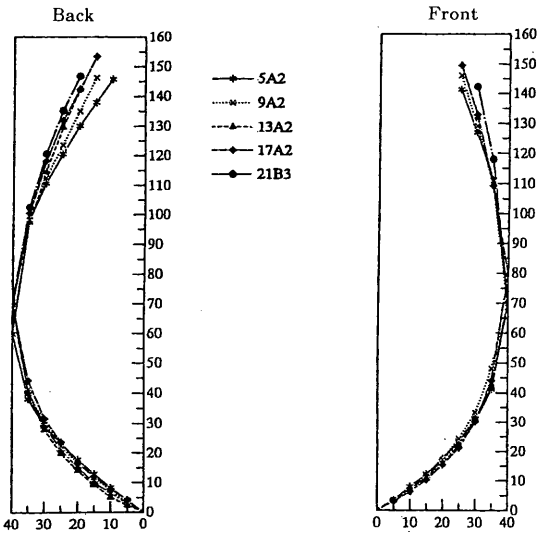


図2 文化式原型のA, H曲線をサイズごとに同一座標上に重ねたもの(手描き)

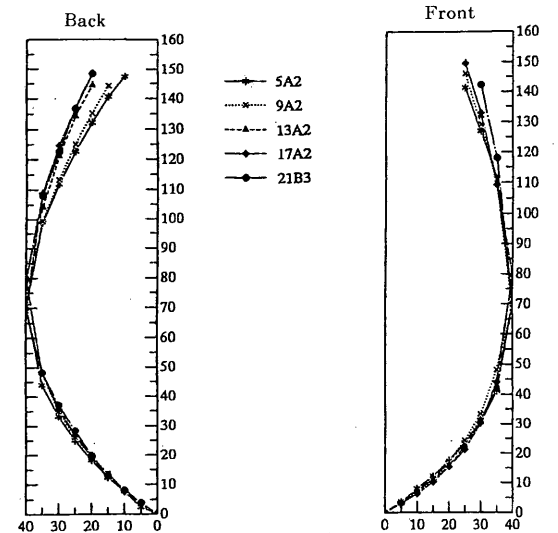


図3 アパレルCADによって作成した文化式原型のサイズごとのA, H曲線

図4は、東京家政大学式原型の場合である。文化式原型と同様、Backのアンダーアームホールにおいて少しバラツキが見られる。

図5は2方式の曲線を重ねた場合である。ほとんど一致している事が分かった。

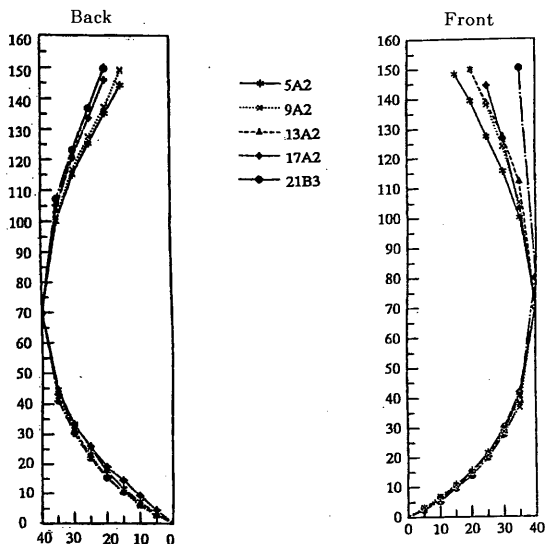


図4 家政大学式原型のA. H曲線をサイズごとに同一座標上に重ねたもの(手書き)

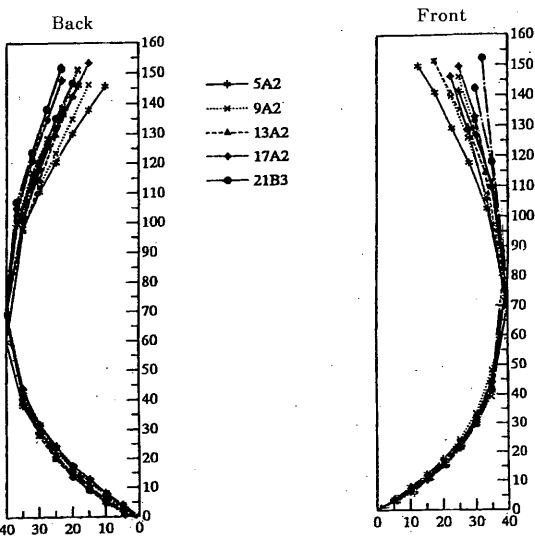


図5 2方式の曲線を重ねたもの

以上の結果より衣服原型においては、文化式、東京家政大学式の2つの方式ではかなり類似していると考えられた。また、アパレルCADの自動機能で作成したアームホール曲線と比較した結果、サイズごとの衣服原型のアンダーアームホール曲線はBackのアンダーアームホール曲線を描く際、指示点を設定することによって2方式がさらに一致した曲線になり、CADで作成した曲線にも近くなることが分かった。各サイズに対して統一的な変形操作を使ってアームホールの形を変えて行く方式を作ることができたら、初心者でも容易にアームホール曲線を描くことができるようになると考えられた。

4. まとめ

結果は次の通りであった。

- (1) 2方式の衣服原型のアームホール曲線はかなり類似していると考えられた。サイズごとの衣服原型のアンダーアームホール曲線は、ほとんどの曲線がほぼ一致した曲線になることが分かった。
- (2) アームホール曲線は一致する部分と、一致しない部分に分かれた。

衣服は肩で着ると言われる位、肩部は着心地や美しさを決める重要な箇所である。また、肩は時代と共に変わる流行のシルエットを作るポイントでもある。本研究における衣服原型の肩部においてもサイズごとにバラツキがみられた。しかし、本研究の方法では論ずることはできないと考えられる。

本研究は、日本繊維製品消費科学会1997年年次大会において口頭発表したものの一部である。

文 献

1) 山田民子, 斎藤春美: 東京家政大学研究紀要, 32 123(1992)